

第2章 質問票の設計

第2章 質問票の設計

2. 1 質問票の設計

ステークホルダーが必要とする情報を精査し、求められている情報を収集・分析するための設問を追加した。また、事故の前後で回答の傾向に変化がない項目等、定点観察が不要であると考えられる項目については削除した。

具体的には、24年度調査において、調査モデルが非常に複雑であることや、統計学的に分析するための質問が不足している等、質問項目や調査モデルの精査が課題となっており、様々なステークホルダーに本調査を活用していただくためには、適切な調査モデルに沿った質問項目が必要であるため、原子力社会調査に関する文献調査に基づく調査モデルの構築、および、それを基にした調査項目の作成を行った。

原子力社会調査に関する文献調査に基づく調査モデルの構築では、原子力の社会的受容性に関する調査研究を整理し、また、近年の我が国における原子力に関する定量的社会調査を縦覧することによって、原子力の社会的受容性に関する意思決定に影響を与える要因を整理した。その結果、原子力の社会的受容性に大きな影響を与える普遍的な心理的要因は、「ベネフィット認知」「リスク認知」「信頼」であることを確認した。この事実に基づき、また、近年の既往研究に見られる心理モデルも参考にして、原子力に対する意識構造を分析するための汎用的な調査モデルを構築した。(2. 1. 1参照)

調査項目の作成では、上記で作成した調査モデルを基に、質問紙調査の調査項目を作成した。過去調査の質問項目には、「ベネフィット認知」「リスク認知」の項目が不足していることから、この測定を増強した。また、調査の継続性等について整理した。(2. 1. 2参照)

2. 1. 1 原子力社会調査に関する文献調査に基づく調査モデルの構築

(1) 原子力の社会的受容性の構造分析に係わる2003年以前の既往研究概要

人々は原子力のリスクをどのように認知しているのか、そして、原子力の社会的受容を決定する要因は何なのか等の答えを探求するために、多数の社会心理学的・実証的研究が行われてきた。このような社会心理学的・実証的研究の中で、特に、1980年代から頻繁に行われるようになった一連のリスク・ベネフィット認知に関する研究や、科学技術に対する態度の決定要因に関する研究を整理した。

① 専門家と人々のリスク認知ギャップ

原子力の社会的受容が困難である原因として、専門家と人々のリスク認知ギャップが原因のひとつとして挙げられることが多い。そのため、この認知ギャップの研究は1980年代から多数行われている。この節では、これらの研究を紹介する。

この分野において、代表的な研究は Slovic (1986)¹である。この研究では、リスクの専門家と一般の人々に原子力発電や、自動車の運転、喫煙などの30の科学技術や日常活動について危険だと感じる順に、1位から30位まで順位をつけさせている。それらの中で、一般の人々は原子力をもっとも危険なものを見なしているが、専門家は自動車の運転をもっとも危険なものを見なしており、原子力は20位である。逆に専門家がリスクが高いと見なしているのに対して、一般の人々のリスク認知が比較的低いのは、X線、原子力以外の電力、水泳などである。専門家はリスクの客観的な期待値、つまり生起確率と被害の大きさの積によって危険の順位を考えるのに対して、一般の人々は客観的なリスクの期待値によらないで危険の順位を考えているために、こうした差が生じると解釈されている。

何を危険と感じるかについての順位は、国によっても異なることが明らかにされている。この点についても、多くの研究が行われている。例えば Tiegen ら(1988)²は、ノルウェー人、ハンガリー人、アメリカ人のリスク認知を86個のリスクを評価させることによって比較している。Mechitov & Rebrik (1990)³は、この結果にさらに旧ソビエト連邦の人々の評価を比較検討している。Hinman ら(1993)⁴は、原子力を含む30の活動や薬物、技術に対するリスク認知について、アメリカと日本との比較分析を行っている。その結果、原子力関連以外のリスクに関しては、ほぼ2/3が類似した傾向を示し、特に、原子力関連リスクについては、リスクの恐ろしさ・リスクの個人制御可能性はアメリカと日本で類似しており、リスクに関する知識・リスク受容の自主性・リスクの新旧の次元は異なることが示された。

Brechmer(1987)⁵や Singleton & Hovden(1987)⁶、田中(靖)(1990)⁷などの研究

¹ Slovic, P. (1986), "Informing and educating the public about risk", *Risk Analysis* 6, 403.

² Tiegen, K. H., Brun, W. and Slovic, P. (1988), "Social risks as seen by Norwegian public", *Journal of Behavioral Decision Making*, 1, 111.

³ Mechitov, A. I. and Rebrik, S. B. (1990), "Studies of risk and safety perception in USSR", "Contemporary issues in decision making", (K. Borcharding, O. I. Larichev, and D. M. Messik Eds.), Elsevier Science Publishers, Amsterdam.

⁴ Hinman, G. W., Rosa, E. A., Kleinhesselink, R. R., and Lowinger, T. C. (1993), "Perceptions of Nuclear and Other Risks in Japan and the United States", *Risk Analysis* 13(4), 449.

⁵ Brechmer, B. (1987), "The psychology of risk", "Risk and decisions", (W. T. Singleton & J. Hovden Eds.), John Wiley & Sons, New York, 25.

⁶ Singleton, W. T. and Hovden, J. (1987), "Final discussion", "Risk and decisions", (W.T.Singleton & J. Hovden Eds.), John Wiley & Sons, New York, 219.

は、専門家の判断は年間死亡率や客観的確率などの科学的・客観的な指標を基に行われるのに対して、一般公衆の判断は特定の出来事の目新しさや新鮮さ、事故が生じた場合のカタストロフィの程度、未来の子孫への脅威などにより強く結びついており、心理的・直感的な判断基準である主観的確率に頼っているということを見出している。

客観的確率と主観的確率が食い違う原因については、第一に、人間は生来的にいくつかの認知バイアスに陥りやすいこと、第二に、それにもかかわらず客観的確率に基づいてリスクを判断する訓練がなされてきていないこと、第三に、バイアスのかかった情報に基づいて判断がなされていることなどが考えられている(田中(豊), 1996⁸)。木下(1988)⁹は一般の人々における知識水準の低さが、人々の間に過大あるいは過小なリスク知覚と偏見を生み出す原因となることを指摘している。

②リスク・ベネフィット認知構造の解明

人々と専門家のリスク認知ギャップの分析が行われている一方で、原子力発電を始めとする種々の科学技術およびその産物の社会的受容を決定する際には人々のリスクとベネフィットの主観的認知が重要であると考え、人々がどのようにリスクやベネフィットを認知するのか、その仕組みを解明しようとする研究が現れた。その中に、人々がある特定のリスクをどのように感じているかについて、主として因子分析の手法を用いて、リスク認知の際に人々が用いる認知次元を解明しようとする一連の研究がある。Slovic(1987)¹⁰の研究はその嚆矢として挙げられるだろう。

Slovic (1987)は、放射性廃棄物や自動車事故、喫煙などさまざまな領域の 81 のリスクについて、18 対の SD 尺度を用いて認知構造を明らかにすることを試みている。その結果、「恐ろしさ」、「未知であること」、「規模の大きさ」の 3 次元が抽出されている。「恐ろしさ」因子には、「コントロールできない」「結果が致命的である」「自発的でない」「将来の世代にリスクがおよぶ」などの評価が含まれている。「未知であること」因子には、「観察することができない」「結果が現れるのに時間がかかる」、「新しいリスクである」などの評価が含まれている。

⁷田中靖政 (1990), “公衆は「リスク」をどう「感ずる」か”, エネルギー・フォーラム 12 月号, 電力新報社.

⁸田中 豊 (1996), “我が国における原子力発電の社会的受容に関する社会心理的研究”, 学習院大政治学研究科博士論文.

⁹木下富雄 (1988), “原子力に対する日本人のリスク・パーセプション”, 日本原子力学会誌, 30(10), 885.

¹⁰ P. Slovic (1987), “Perception of Risk” Science 236, 280.

Slovic (1987)の研究は、アメリカ人を対象としたものであるが、これをもとに同様の研究が各国で行われている。例えば、ハンガリー人について Englander ら (1986)¹¹、ノルウェー人については Tiegenら(1988)¹²、日本人とアメリカ人について比較を行ったものとして Kleinhesselink & Rosa (1991)¹³や広瀬ら(1993)¹⁴がある。

ベネフィット認知に関しても田中(豊)(1997)¹⁵が同様の分析を実施しており、ベネフィット認知が、「親近性」因子と「将来性」因子という 2 つの因子から構成されていることを明らかにした。

リスク認知とベネフィット認知とを一括して扱っている研究もある。Alhakami & Slovic(1994)¹⁶は、リスクの判断とベネフィットの判断が反転する関係にあることを詳細に説明している。この反転関係はロバストであり、人々の心におけるリスクとベネフィットが絡み合って存在する様を表していると述べている。また、Frewer ら (1998)¹⁷は、種々の科学技術に対する認知をアンケートにより調査し、因子分析を行った結果、大きな因子として「リスク」因子と「ベネフィット」因子の 2 つを見出している。

③原子力に対する態度の決定要因：原子力認知構造との関連について

(2)のように認知構造を明らかにするのみでなく、原子力発電を始めとする種々の科学技術に対する態度の決定要因は何か、それらの要因はそれぞれの程度重要なのか、などに関しての社会心理学的・実証的研究がいくつか行われている。

下岡(1993)¹⁸は、統計解析の一種である林式数量化 2 類解析法を用いて、公

¹¹ Englander, T., Farago, K., Slovic, P., Fishchhoff, B. (1986), "A comparative analysis of risk perception in Hungary and the United States", *Social Behaviour*, 1, 55.

¹² Tiegen, K. H., Brun, W. and Slovic, P. (1988), "Social risks as seen by Norwegian public", *Journal of Behavioral Decision Making*, 1, 111.

¹³ Kleinhesselink, R. and Rosa, E. A. (1991), "Cognitive representation of risk perception, A comparison of Japan and the United States", *Journal of Cross-cultural Psycholol.*, 22, 11.

¹⁴ 広瀬弘忠, Slovic, P., 石塚智一 (1993), "大学生のリスク認知に関する日米比較研究", *社会心理学研究* 9(2), 114.

¹⁵ 田中 豊 (1997), "原子力発電所立地におけるリスク認知とベネフィット認知", *日本リスク研究学会誌*, 9, 51, 1997.

¹⁶ Alhakami, A. S. and Slovic, P. (1994), "A psychological study of the inverse relationship between perceived risk and perceived benefit", *Risk Analysis*, 14(6), 1085.

¹⁷ Frewer, L. J., Howard, C., Shepherd, R. (1998), "Understanding public attitudes to technology", *Journal of Risk Research* 1(3), 221.

¹⁸ 下岡 浩 (1993), "原子力に対する公衆の態度決定構造", *日本原子力学会誌* 35(2), 115.

衆が原子力発電の推進－反対の態度決定を行う主要な要因を求めている。彼は、原子力発電の推進－反対を外的要因とし、有用感や安心感や安全感(制御可能感)の有無を要因として分析し、その結果、もっとも大きい要因は有用感の有無であり、これに比べて安心感や安全感(制御可能感)の有無は要因としては小さいこと、特に無用とする判断が原子力発電の廃止意見に強く関係していることを明らかにした。同時に、不安の認識は、原子力発電を廃止すべきとの態度決定要因としては無用・危険(制御不能)の認識に比べて小さく、不安感のみでは廃止派となる大きな要因にはならないとの知見も得ている。

田中(豊)ら(1993)¹⁹は、主観的な認知であるリスクとベネフィットという2つの要因が、原子力発電を始めとする種々の科学技術およびその産物の社会的受容を決定する上で、どの程度重要な要因となっているかを、多変量解析の1つである重回帰分析を用いて検証している。これによれば、原子力発電の社会的受容において、リスクとベネフィットの主観的認知が特に重要であることが示された。このことはこれまでのリスクとベネフィットの主観的認知バランスから原子力発電を始めとする種々の科学技術およびその産物の社会的受容を説明しようとする一連の研究に妥当性を与えるものといえる。特に、原子力発電に関しては、その社会的受容を決定するに当たりリスク認知とベネフィット認知の2つの要因が重要であること、社会的受容の決定においてベネフィット認知の要因がより重要な役割を果たしていることを見出している。

さらに、田中(豊)(1995)²⁰は、地球環境に対する有益性、科学技術およびその産物に対するマスコミ報道の好感度、事業主体に対する信頼性などの要因が、これまで明らかにされているリスクやベネフィットの要因と共に、科学技術の社会的受容に重要な影響を及ぼす新たな要因となり得るかどうかを、重回帰分析を用いて検討している。結果としては、リスク認知とベネフィット認知は、田中(豊)ら(1993)の研究と同じく、原子力発電の社会的受容を決定する重要かつ安定した要因であり、事業主体に対する信頼性も、原子力発電の社会的受容に影響を与える要因であることを確認した。一方、マスコミ報道の好意度については、原子力発電の社会的受容の予測にはほとんど影響を与えないことが示されている。

ところで上述の研究は、一般論的な状況設定のもとで行われたものである。しかし、原子力施設の社会的受容を決定する心理的要因を明らかにする上では、一

¹⁹田中 豊ら(1993)，“科学技術に対する態度に関する研究”，社会心理学会「第34回大会」予稿集，314.

²⁰田中 豊(1995)，“科学技術の社会的受容を決定する要因”，実験社会心理学研究，35，111.

一般論の状況と、立地の状況とを区別して考えなければならない。

田中(豊)(1998)²¹は、一般論の状況と、立地の状況とでは、社会的受容におけるリスク認知およびベネフィット認知の重要性が異なることを見出している。一般的な状況においては、原子力発電所の場合もまた高レベル放射性廃棄物地層処分場の場合も、その社会的受容においてリスク認知およびベネフィット認知が重要であり、事業主体に対する信頼感もやや重要な要因であるが、立地の状況においては、社会的受容においてリスク認知が非常に重要となっている一方、ベネフィット認知については公的なベネフィットも、また私的なベネフィットも、両者において重要な要因となっていない。

木村らは、原子力を認知する心理的構造を明らかにした上で、原子力の社会的受容性に影響を与える心理的要因を分析している。まず、原子力を認知する心理的構造として、「有用性」「リスク認知」「信頼」「立地の恩恵」の4因子を見出し、これは性別、年齢、消費地・立地地域の別、知識レベルによらないことを確認している(木村ら, 2003a²²)。その上で、これらの4因子のうち、社会的受容性に影響を与えるものとして、「有用性」「リスク認知」「信頼」の3因子を指摘している(木村ら, 2003b²³; 木村ら, 2003c²⁴; 木村ら, 2003d²⁵)。(なお、「立地の恩恵」は社会的受容性に影響を与えないも、同時に指摘している。)

④原子力に対する態度の決定要因:その他の要因について

原子力に対する態度の決定要因は、何も原子力を認知する構造内に含まれるものだけではない。性別・年齢・居住地・知識・価値観等のような個人的特性の影響についても検討されている研究がある。本項では、そのような個人的特性について述べる。

土田(1997)²⁶は、原子力発電を例に取り、公共のリスク対象に対する好悪感情によって、例えば、好意的感情を持っている人では、原子力発電の受容を一般

²¹田中 豊 (1998), “高レベル放射性廃棄物地層処分場立地の社会的受容を決定する心理的要因”, 日本リスク研究学会誌, 10(1), 45.

²²木村 浩ら(2003a)、居住地、性、知識レベルに着目した原子力認知構造の分析、日本原子力学会和文論文誌, 2(4), 389-399.

²³木村 浩ら(2003b)、原子力の社会的受容に影響を与える因子の探索 東京都杉並区の調査結果、日本原子力学会和文論文誌, 2(1), 68-75.

²⁴木村 浩ら(2003c)、原子力の社会的受容性を判断する要因—居住地および知識量による比較分析、日本原子力学会和文論文誌, 2(4), 379-388

²⁵木村 浩ら(2003d)、原子力の賛否を判断する要因は何か—居住地および知識量に着目した比較分析、社会技術研究論文集, 1, 307-316.

²⁶土田昭司 (1997), “パブリックアクセプタンスと公的規制・情報公開”, 日本リスク研究学会誌 8(1), 96.

論と自分に関わることは分けて考える傾向があるのに対して、否定的感情を持っている人では、原子力発電の受容を自分に関わることとして考え、エネルギー消費についての価値観と連動して考えていることなど、認知構造に違いがあると報告している。

また、原子力に関する知識レベルに言及するものもいくつか見られる。永井ら(1999)²⁷は、原子力に関して主観的知識を持つ者と持たない者について、社会的受容性にどのような違いがあるかを比較している。また、木村(2003c)においても、社会的受容性に関する知識の役割について、態度決定をロバストにすると指摘している。

(2)原子力の社会的受容性の構造分析に係わる2004年以降の既往研究概要

2004年以降、原子力の社会的受容性の構造分析に係わる研究はあまり見られなくなる。それは社会的受容性の構造化の分野において、ひとつの結論が出たということを示している。すなわち、原子力の社会的受容性に影響を与える心理的要因は「ベネフィット認知」「リスク認知」および「信頼」ということである。したがって、2004年以降には、(それ以前にも出ていたが、)個人の立場や価値観等がどのように受容の判断に影響するかを分析するものが多くなる。

たとえば、土屋(2003)²⁸は、専門家と市民の意識の違いに焦点をあてて、原子力の受容性について論じている。また、岡部ら(2013)²⁹は、東日本大震災以降の専門家と大学生の相違点を論じている。「原子力発電は、直感的に恐ろしいと感じる」および「原子力発電のメリットを、日常生活の中で個人的に感じるがある」の2つの項目が大学生にとっては効いていて、専門家の「社会的必要性」や「事故発生時の発表の誠実さ」などにより、今後の原子力発電の利用に関する選択を行なっている点とは異なるとの結果を見出している。

篠崎ら(2005)³⁰は、原子力の受容性に関して、安全性への信頼、リスク認知のほかに、社会システム観が影響を与えていると指摘する。社会システム観とは、個人の価値観が個人志向なのか、システム志向なのか、ということを示している。

²⁷永井廉子ら“原子力発電に対する公衆の態度－態度の強度測定を中心にして－”，*INSS Journal* 6, 24.

²⁸土屋智子(2003)，原子力技術と社会的受容性，*IEEEJ Journal*, Vol.123, No.2.

²⁹岡部康成ら(2013)，原子力発電のリスク認知や事故対応の評価、社会的受容における決定要因に関する東日本大震災発生後の専門家と大学生の相違点，*生活科学研究* 35, 73.

³⁰篠崎香織ら(2005)，意思決定における社会システム観の影響，*日本リスク研究学会誌* 15(2), 55.

(3) 調査モデルの作成

ここまでで、原子力の社会的受容性に大きな影響を持ちうる主な心理的要因は、「ベネフィット認知」「リスク認知」「信頼」の3つであることを示してきた。これらの心理的要因と社会的受容性の関係性について、「ベネフィット認知」「信頼」は受容性を高めるように働き、「リスク認知」は受容性を下げるように働く。

これらの3つの心理的要因と社会的受容性の関係について、いくつかのモデルが提案されている。そのうちのいくつかにおいて、「信頼」が受容性に与える影響は間接的であるものが確認できることは興味深いが、基本的には、直接または間接に影響を与えていることはほとんど全ての研究で指摘されることである。

たとえば、篠田(2007)³¹は、原子力に対する意識および、その規定因についてまとめている(図1)。また、木村(2009)³²は、社会調査の結果から共分散構造分析を用いて分析し、原子力の社会的受容性に関する心理モデルを組み立てている(図2)。

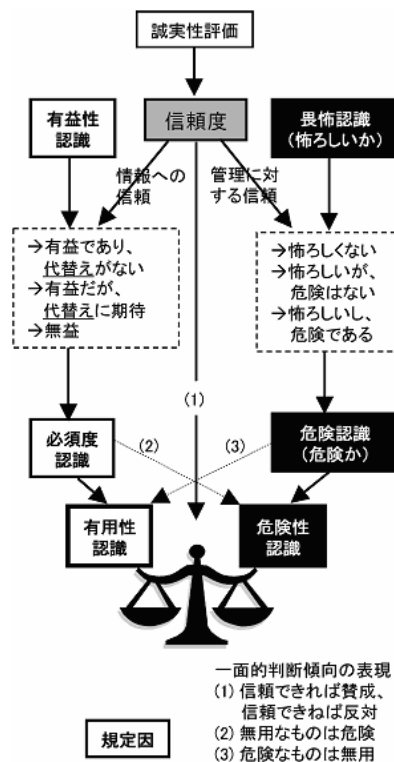
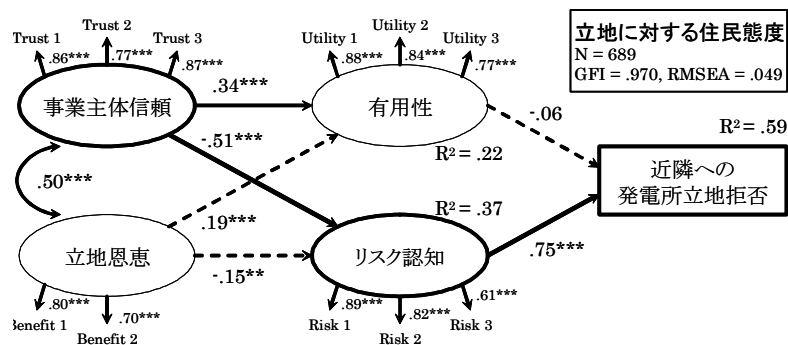
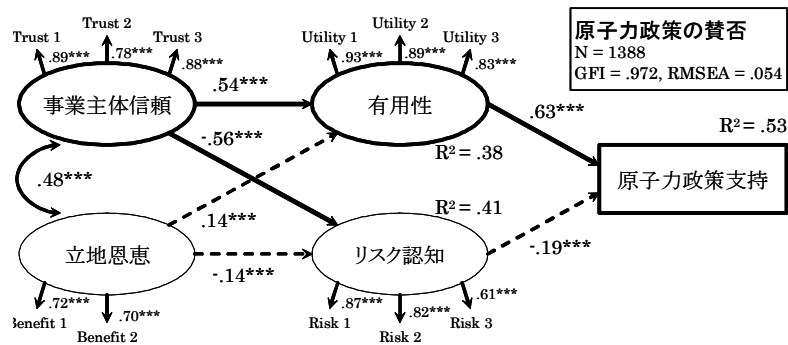


図1 篠田(2007)による原子力の社会的受容性に関する構造モデル

³¹篠田佳彦(2007), 原子力と社会の相互作用に関する考察, 日本原子力学会和文論文誌 6(2), 97.

³²木村 浩(2009), 原子力の社会的受容性とコミュニケーション, 日本原子力学会誌 アトモス 51(4), 239-243.



要因	測定項目
事業主体信頼	Trust1 原子力発電所はしっかりと安全対策をしている
	Trust2 原子力発電所で働く技術者は、発電所の運転をしっかりと行っている
	Trust3 原子力発電所で使用されている機器の安全性は高い
有用性	Utility1 将来の電力使用量を考えると、原子力発電は必要だ
	Utility2 全電力量の1/3をまかなっている原子力発電が、今後も使われるのは当然である
	Utility3 電気の安定供給のためには、原子力発電は必要だ
立地恩恵	Benefit1 原子力発電所周辺の町はいろいろな施設が充実する
	Benefit2 原子力発電所が建設されると、その周辺地域の雇用が増える
リスク認知	Risk1 原子力発電所周辺は放射能汚染が心配だ
	Risk2 原子力発電所の近くで採れた野菜や魚などは食べたくない
	Risk3 原子力発電所で大きな事故が起こるかもしれない、という心配がある
原子力の社会的受容性	原子力政策の賛否：あなたは日本の原子力政策に賛成ですか、反対ですか 立地に対する態度：自分が住んでいる地域に原子力発電所が建設されるのは嫌だ

図2 木村(2009)による原子力の社会的受容性に関する構造モデル

注: 図中において、* p<.05, ** p<.01, *** p<.001。共分散構造モデルの採用に際しては、モデル適合度を測定する2つの基準、GFI および RMSEA を判断基準として、もっともモデル適合度の高いモデルを採用した。また、立地に対する住民態度は、原子力政策に賛成を表明した回答者のみで分析している。

これらを参照しながら、原子力の社会的受容性に関する調査モデルとして、「ベネフィット認知」「リスク認知」「信頼」の 3 つを中心とした汎用の心理モデルを組んだ(図3)。心理的要因間の影響傾向は正負の符号で示した。³³

なお、本心理モデルは、多くの既往調査・研究に共通に見られる知見を集約したものであり、本モデルはもはや検証を必要としないほどに認められている部分と
いってよい。したがって、次章に続く調査項目の作成においては、本モデルを構成している心理的要素の測定をアンケートによってどのように行うかが中心的な議論となる。

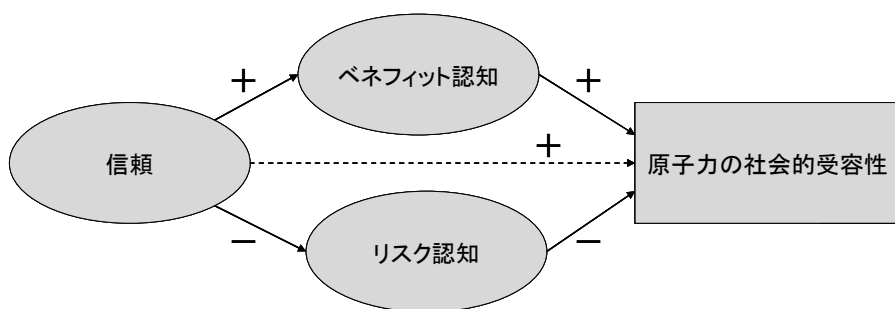


図3 原子力に社会的受容性に関して見られる共通的な心理モデル

³³ なお、個人的特性については、原子力の社会的受容性に影響を与える各心理的要因に個別に影響を与えるものではなく、また、どのように影響を与えるかについても確たるモデルが示されていないため、本調査モデルの中には含めないこととした。

しかし、態度の形成に影響を与えないものではない。したがって、調査項目作成においては、個人的特性の測定についても含めている。

2. 1. 2 調査項目の作成

2.1.1 で構築した調査モデルに基づき、質問項目を作成した。

まず、調査モデルを構築する重要な 3 要因(ベネフィット認知、リスク認知、信頼)について、過去の調査項目を整理した結果、ベネフィット認知、リスク認知に関する項目が不十分であると判断し、必要なものを追加することとした。

また、受容性の判断に影響を与えうると考えられる個人的特性(性別・年齢・居住地・知識・価値観等)については、既往の研究を参照に、新たに社会システム観の項目を追加した。

なお、本社会調査は広報事業の効果を測定する項目が多く見られたが、そのうち広報コンテンツに関する評価項目は削除することとした。その理由は、広報コンテンツがその場にはない状態で、問いに答えることは意味が薄いためであり、アンケートで質問する項目としては不適切と判断したためである。

具体的には以下の通り。

(1) ベネフィット認知を測定する項目(表1)

ベネフィット認知を測定する項目には、原子力に関する全体的な必要性・有用性の認知、個別トピックに関する有用性の認知、経済性や環境、エネルギー供給に対する有用性の認知、放射線利用に関する有用性の認知が含まれる。

表1 原子力・放射線に関するベネフィット認知を測定する項目

問	SQ	質問文	特性
7		あなたは、原子力に関する次の意見について、どのように思いますか。 ³⁴	———
	a	原子力発電は必要である	原子力発電
	b	原子力発電は有益である	原子力発電
	c	核燃料サイクルは有益である	核燃料サイクル
	d	プルサーマルは有益である	プルサーマル
	e	原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる	経済性
	f	原子力発電がないと、電気料金が上がる	経済性
	m	原子力の利用は暮らしの中で役に立つ	原子力
	n	原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないで、地球温暖化防止に有効である	温暖化対策
	p	エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要である	エネルギー供給
	q	国産のエネルギーを増やすことは重要である	エネルギー供給
	t	医療、工業、農業等における放射線利用は必要である	放射線利用

³⁴実際には、「あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか」という設問で調査を実施した。

(2)リスク認知を測定する項目(表2)

リスク認知を測定する項目には、大きく原子力発電に関する不安感と、放射線に関する不安感についての質問が含まれる。また、それぞれ、不安を引き起こす事象に対する不安感と、その事象を引き起こす原因に対する不安感を質問している。

表2 原子力・放射線に関するリスク認知を測定する項目

問	SQ	質問文	特性
8		あなたが、原子力発電について不安と感じる事柄についてお伺いします。	———
	1	原子力発電所の事故	事象
	2	環境への放射線・放射能の漏えい	事象
	3	放射線や放射性物質による被ばく	事象
	4	放射性廃棄物の処分	廃棄物
	5	地震や津波など自然災害	原因・災害
	6	原子力に関わる人や組織	原因・組織
	7	機械の故障	原因・技術
	8	行政機関や事業者の安全管理体制	原因・管理
	9	テロ	原因・外部要因
9		あなたが、放射線について不安と感じる事柄についてお伺いします。	———
	1	自然の放射線や放射性物質	原因
	2	原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質	原因
	3	利用されている放射線や放射性物質	原因
	4	自然の放射線や放射性物質に起因する被ばく	起因事象
	5	原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質に起因する被ばく	起因事象
	6	利用されている放射線や放射性物質に起因する被ばく	起因事象
	7	自然の放射線や放射性物質に起因する被ばくによる人体影響	起因事象
	8	原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質に起因する被ばくによる人体影響	起因事象
	9	利用されている放射線や放射性物質に起因する被ばくによる人体影響	起因事象
10		現在、高レベル放射性廃棄物の処分について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。	廃棄物

(3) 信頼を測定する項目(表3)

信頼を測定する項目では、専門家や原子力関係者への信頼(人への信頼、11-1)と、国や自治体への信頼(公的組織への信頼、12-1)についての質問を含む。また、本質問はサブクエスチョンを備えており、なぜそのような回答になるかについての質問を含む。サブクエスチョンは、信頼を構成する要素について測定できるように構成されている。

表3 原子力に関わる人・組織に関する信頼を測定する項目

問	SQ	質問文	特性
11-1		原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか	信頼全般
12-1		原子力に関して、あなたは国や自治体を信頼できると思いますか	信頼全般
11/12-2		そう答えた理由は何ですか	———
	1	専門的な知識を持っているから	能力
	2	専門的な知識が不足しているから	能力
	3	偏った見方をしているから	客観性
	4	公平な見方をしているから	客観性
	5	正直に話しているから	正直さ
	6	正直には話していないから	正直さ
	7	私たちのことを配慮しているから	配慮
	8	私たちのことには配慮していないから	配慮
	9	私たちと考え方が似ているから	共感
	10	私たちとは考え方が違うから	共感
	11	熱意をもって、原子力に携わっているから	熱意
	12	熱意が感じられないから	熱意
	13	管理体制や安全対策ができていないから	能力
	14	管理体制や安全対策が不足しているから	能力
	15	情報公開ができていないから	公開
	16	情報公開が不足しているから	公開
	17	信頼したいから	感情
	18	信頼したくないから	感情
	19	国や自治体は営利目的ではないから	意図・問12のみ
	20	自分たちの利益優先に感じるから	意図・問12のみ

(4) 社会的受容性を測定する項目(表4)

原子力の社会的受容性を測定する項目は、原子力利用に関する質問が含まれる。

表4 原子力に関する社会的受容性を測定する項目

問	SQ	質問文	特性
6		今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。	———
	4	原子力発電	総論
7		あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。 ³⁴	———
	g	今後、原子力発電を利用していくべきである	総論
	h	今後、原子力発電を廃止すべきである	総論

(5) その他の測定項目について

その他の測定項目は、知識、価値観に関する質問が含まれる。

①知識(表5)

知識の測定については、例えばテストのような客観的知識量の測定ではなく、回答者が知っていると自身で認識しているかどうかを問う主観的知識量の測定に統一した。主観的知識量と客観的知識量は一般に高相関を示し、また、回答者の態度表明には、主観的知識量の方が整合的な影響を示すためである。

表5 原子力・放射線に関する主観的知識量を測定する項目

問	SQ	質問文	特性
4		原子力やエネルギーの分野において、あなたをご存知のものはどれですか。	———
	1	日本のエネルギー自給率は4%である	エネルギー供給
	2	二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである	温暖化
	3	電力を安定的に供給するため、さまざまな発電方式を組み合わせで発電されている	エネルギー供給
	4	原子力発電はウランの核分裂で発生した熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している	発電方法
	5	火力発電は化石燃料を燃やした熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している	発電方法
	6	フランスの発電電力量の約8割は原子力発電が担っている	エネルギー供給
	7	ドイツは今後、国内の原発を廃止する方針である	エネルギー供給
	8	ブルサールでは原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用する	ブルサール
	9	使用済核燃料のウランとプルトニウムを取り出し、再び燃料として使用する一連の流れを核燃料サイクルという	核燃料サイクル
	10	軽水炉の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である	原爆との差異
	11	私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている	放射線
	12	放射線と放射能は違う	放射線
	13	放射線は医療・工業・農業等さまざまな分野で利用されている	放射線利用
	14	確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響である	放射線影響
	15	確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である	放射線影響
5		放射線利用の分野において、あなたをご存知のものはどれですか。	———
	1	プラスチックの強化	放射線利用
	2	花や植物の品種改良	放射線利用
	3	ガン治療	放射線利用
	4	食品への照射	放射線利用
	5	年代測定	放射線利用
	6	CT スキャン	放射線利用
	7	非破壊検査	放射線利用
	8	レントゲン	放射線利用
	9	医療器具などの滅菌	放射線利用

②価値観(表6)

科学技術に対する態度に影響する個人的な特性として、価値観が挙げられる。本調査では表6に挙げるような価値観を測定し、影響の程度を分析できるように設計した。

表6 個人的価値観等を測定する項目

問	SQ	質問文	特性
7		あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。 ³⁴	————
	r	日本にはエネルギー資源がほとんどないことを考慮して、将来のエネルギーのことを考えるべきである	エネルギー観
	s	少しくらい生活が不便でも、省エネルギーに取り組むべきである	エネルギー観
18		科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。	————
	1	直感的・感覚的に判断することが多い	直感・論理
	2	論理的に判断することが多い	直感・論理
	3	精神的な豊かさより物質的な豊かさが大切だ	物質・精神
	4	物質的な豊かさより精神的な豊かさが大切だ	物質・精神
	5	便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない	便利・不便
	6	自然環境と調和するためには、社会生活の豊かさはある程度制限されなければならない	便利・不便
	7	ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい	リスク観
	8	科学技術、環境に関する問題は、専門家による委員会等で決定されるべきだ	自主・委託
	9	科学技術、環境に関する問題は、住民による話し合い等で決定されるべきだ	自主・委託
	10	科学技術が発展することで、人は豊かになる	科学技術観
	11	高度な技術も科学技術で完全に制御できる	科学技術観
	12	どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない	科学技術観
	13	社会の仕組みはますます複雑で分かりにくいものになっている	社会システム観
	14	地域社会の豊かさは、ほかの社会との調和なしには実現しない	社会システム観
	15	個人がそれぞれの幸福を追求すれば、経済は発展する	社会システム観

(6) 過去調査との継続性の確認

前項までの各要素別の質問項目の設計を受けて、平成 25 年度の質問項目を作成した。表 7 には、平成 25 年度と平成 24 年度の調査項目に関する新旧対応表を示した。今年度調査では、調査内容の向上を目指し、前年度までの調査とは大きく変更したため、直接経年比較が可能な項目は少ないが、過去調査での項目が基本的には含まれるように調整し、参考情報として得られるようにしている。

表 7 新旧対応表(1/2)

H25	H24	測定要素	変更理由等
問 1	問 4	原子力イメージ	
問 2	問 5	放射線イメージ	
問 3	問 7-1	関心	
問 4	————	知識(主観)	客観知識ではなく主観知識を主に測定することとしたため
問 5	問 7-2	知識(主観)	関心を問う問題から、知識を問う問題に変更
問 6	問 21-1	受容性	
問 7-a, b	問 10-b	ベネフィット認知	選択肢を一部変更
問 7-c	問 10-c	ベネフィット認知	選択肢を一部変更
問 7-d	問 10-d	ベネフィット認知	選択肢を一部変更
問 7-e	————	ベネフィット認知	時勢を考慮して新規作成
問 7-f	————	ベネフィット認知	時勢を考慮して新規作成
問 7-g	————	受容性	受容性測定項目がなかったため、新規作成
問 7-h	————	受容性	受容性測定項目がなかったため、新規作成
問 7-i	問 10-g	広聴・広報	選択肢を一部変更
問 7-j	問 10-h	広聴・広報	選択肢を一部変更
問 7-k	問 10-j	広聴・広報	選択肢を一部変更
問 7-l	問 10-i	広聴・広報	選択肢を一部変更
問 7-m	————	ベネフィット認知	時勢を考慮して新規作成
問 7-n	問 10-m	ベネフィット認知	選択肢を一部変更
問 7-o	問 10-n	他エネルギー源のリスク認知	選択肢を一部変更
問 7-p	————	ベネフィット認知	H24-問 10-o を受けて、新規作成
問 7-q	————	ベネフィット認知	H24-問 10-o を受けて、新規作成
問 7-r	————	価値観	H24-問 10-o を受けて、新規作成
問 7-s	————	価値観	H24-問 19-7 を受けて、新規作成
問 7-t	問 10-a	ベネフィット認知	
問 8	————	リスク認知	リスク認知測定項目の不足のため、新規作成
問 9	問 17	リスク認知	質問文・選択肢を大きく変更
問 10	問 18	HLW のリスク認知	
問 11-1	問 11-1	信頼	
問 11-2	問 11-2	信頼	選択肢を一部変更

表7 新旧対応表(2/2)

H25	H24	測定要素	変更理由等
問 12-1	問 13-1	信頼	質問文を一部変更
問 12-2	問 13-2	信頼	選択肢を一部変更
問 13	問 14	広聴・広報	質問文・選択肢を一部変更
問 14	問 8-1	広聴・広報	質問文・選択肢を一部変更
問 15	————	信頼	H24-問 9-1-「理解に役立つもの」を受けて、新規作成
問 16	————	信頼	H24-問 8-2, 3, H24-問 12 を受けて、新規作成
問 17	問 9-1	広聴・広報	「理解に役立つもの」は削除、信頼を聞く項目に変更し、問 15
問 18	問 19	価値観	選択肢を一部変更・追加(H24-問 19-7→H25-問 7-s, H24-問 19-8:削除)
問 19	問 25	自由回答	
削除	問 1		客観知識を問う問題から主観知識を問う問題へ(H25-問 4-1)
削除	問 2		形式を変更し、問 4-2 へ
削除	問 3		客観知識を問う項目から主観知識を問う項目への統廃合による削除
削除	問 6		形式を変更し、H25-問 4 へ(1→11, 2→12, 3→13, 4→14, 15, 5→10, 6→8, 9)
削除	問 8-2		H24-問 8-3 と統合し、情報源(人)の信頼を聞く項目に変更し、H25-問 16 へ
削除	問 8-3		H24-問 8-2 と統合し、情報源(人)の信頼を聞く項目に変更し、H25-問 16 へ
削除	問 9-2		H24 年度調査結果から、特に必要ないと判断されたため
削除	問 10-e		時勢を考慮した結果、削除と判断されたため
削除	問 10-f		時勢を考慮した結果、削除と判断されたため
削除	問 10-k		時勢を考慮した結果、削除と判断されたため
削除	問 10-l		時勢を考慮した結果、削除と判断されたため
削除	問 10-o		H25-問 7-p, q, r へ展開
削除	問 12		H25-問 16 へ統合
削除	問 15		H25-問 12-1 へ統合
削除	問 16		H25-問 5 に統合
削除	問 20		H24 年度調査結果から特に必要ないと判断されたため
削除	問 21-2		H25-問 7 へ統合
削除	問 22		時勢を考慮した結果、削除と判断されたため
削除	問 23		時勢を考慮した結果、削除と判断されたため
削除	問 24		H25-問 8 へ一部統合

2. 2 世論調査票

テーマ:「原子力」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 明るい | 13 暗い |
| 2 悪い | 14 よい |
| 3 おもしろい | 15 つまらない |
| 4 親しみやすい | 16 親しみにくい |
| 5 複雑 | 17 単純 |
| 6 安全 | 18 危険 |
| 7 信頼できない | 19 信頼できる |
| 8 不安 | 20 安心 |
| 9 必要 | 21 不必要 |
| 10 役に立たない | 22 役に立つ |
| 11 わかりやすい | 23 わかりにくい |
| 12 気になる | 24 気にならない |
| | 25 その他(具体的に:) |
| | 26 あてはまるものはない |

【すべての方に】

問2 あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 暗い | 13 明るい |
| 2 よい | 14 悪い |
| 3 おもしろい | 15 つまらない |
| 4 親しみにくい | 16 親しみやすい |
| 5 単純 | 17 複雑 |
| 6 安全 | 18 危険 |
| 7 信頼できない | 19 信頼できる |
| 8 安心 | 20 不安 |
| 9 不必要 | 21 必要 |
| 10 役に立つ | 22 役に立たない |
| 11 わかりやすい | 23 わかりにくい |
| 12 気にならない | 24 気になる |
| | 25 その他(具体的に:) |
| | 26 あてはまるものはない |

【すべての方に】

問3 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 石油や石炭など化石資源の消費 | 13 放射線の医療利用 |
| 2 地球温暖化 | 14 放射線の農業利用 |
| 3 世界のエネルギー事情 | 15 核不拡散 |
| 4 日本のエネルギー事情 | 16 高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ |
| 5 太陽光発電の開発状況 | 17 「もんじゅ」の安全性 |
| 6 風力発電の開発状況 | 18 核燃料の製造加工 |
| 7 バイオマス発電の開発状況 | 19 省エネルギー |
| 8 核分裂のしくみ | 20 放射性廃棄物の処分 |
| 9 原子力発電の安全性 | 21 使用済燃料の貯蔵 |
| 10 プルサーマル・核燃料サイクル | 22 原子力施設のリスク（事故・トラブルなど） |
| 11 放射線による人体の影響 | 23 その他（具体的に： ） |
| 12 放射線の工業利用 | 24 特にない／わからない |

【すべての方に】

問4 原子力やエネルギーの分野において、あなたがご存知のものはどれですか。ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 日本のエネルギー自給率は4%である |
| 2 二酸化炭素は地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つである |
| 3 電力を安定的に供給するため、さまざまな発電方式を組み合わせで発電されている |
| 4 原子力発電はウランの核分裂で発生した熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している |
| 5 火力発電は化石燃料を燃やした熱で水蒸気を作り、タービン発電機を回して発電している |
| 6 フランスの発電電力量の約8割は原子力発電が担っている |
| 7 ドイツは今後、国内の原発を廃止する方針である |
| 8 プルサーマルでは原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電（軽水炉 _{※1} ）の燃料として利用する |
| 9 使用済核燃料のウランとプルトニウムを取り出し、再び燃料として使用する一連の流れを核燃料サイクルという |
| 10 軽水炉 _{※1} の燃料は核分裂しやすいウランの割合が3~5%であるのに対し、原子爆弾はほぼ100%である |
| 11 私たちは宇宙や大地、大気や食物から常に自然の放射線を受けている |
| 12 放射線と放射能は違う |
| 13 放射線は医療・工業・農業等さまざまな分野で利用されている |
| 14 確定的影響は、一定量の放射線を受けると必ず現れる影響である |
| 15 確率的影響は、放射線を受ける量が多くなるほど影響が現れる確率が高まる影響である |

<※1 軽水炉> 原子炉の種類の一つ。日本の発電用原子炉はすべて軽水炉。

【すべての方に】

問5 放射線利用の分野において、あなたをご存知のものはどれですか。ご存知のものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|-----------|----|-------------|
| 1 | プラスチックの強化 | 6 | CT スキャン |
| 2 | 花や植物の品種改良 | 7 | 非破壊検査 |
| 3 | ガン治療 | 8 | レントゲン |
| 4 | 食品への照射 | 9 | 医療器具などの滅菌 |
| 5 | 年代測定 | 10 | その他(具体的に:) |
| | | 11 | 特にない/わからない |

【すべての方に】

問6 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|----|-------------|
| 1 | 石炭火力発電 |
| 2 | 石油火力発電 |
| 3 | 天然ガス火力発電 |
| 4 | 原子力発電 |
| 5 | 水力発電 |
| 6 | 地熱発電 |
| 7 | 風力発電 |
| 8 | 太陽光発電 |
| 9 | 廃棄物発電 |
| 10 | バイオマス発電 |
| 11 | その他(具体的に:) |
| 12 | あてはまるものはない |

【すべての方に】

問7 あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

		そう思う	どちらかといえ ば そう思う	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば そう思 わない	そう 思 わ な い
a) 原子力発電は必要である	→	1	2	3	4	5
b) 原子力発電は有益である	→	1	2	3	4	5
c) 核燃料サイクルは有益である	→	1	2	3	4	5
d) プルサーマルは有益である	→	1	2	3	4	5
e) 原子力発電がなくても、日本は経済的に発展できる	→	1	2	3	4	5
f) 原子力発電がないと、電気料金があがる	→	1	2	3	4	5
g) 今後、原子力発電を利用していきべきである	→	1	2	3	4	5
h) 今後、原子力発電を廃止すべきである	→	1	2	3	4	5
i) できるだけたくさんの情報が国民に届くようにするべきである	→	1	2	3	4	5
j) わかりやすく情報を伝えるべきである	→	1	2	3	4	5
k) 些細なことでも隠さず伝えるべきである	→	1	2	3	4	5
l) 学校の授業で教えるべきである	→	1	2	3	4	5
m) 原子力の利用は暮らしの中で役に立つ	→	1	2	3	4	5
n) 原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である	→	1	2	3	4	5
o) 化石資源を使い切ることやオイルショックが心配である	→	1	2	3	4	5
p) エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要である	→	1	2	3	4	5
q) 国産のエネルギーを増やすことは重要である	→	1	2	3	4	5
r) 日本にはエネルギー資源がほとんどないことを考慮して、将来のエネルギーのことを考えるべきである	→	1	2	3	4	5
s) 少しくらい生活が不便でも、省エネルギーに取り組むべきである	→	1	2	3	4	5
t) 医療、工業、農業等における放射線利用は必要である	→	1	2	3	4	5

【すべての方に】

問8 あなたが、原子力発電について不安と感じる事柄についてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- 1 原子力発電所の事故
- 2 環境への放射線・放射能の漏えい
- 3 放射線や放射性物質による被ばく
- 4 放射性廃棄物の処分
- 5 地震や津波など自然災害
- 6 原子力に関わる人や組織
- 7 機械の故障
- 8 行政機関や事業者の安全管理体制
- 9 テロ
- 10 その他(具体的に:)
- 11 あてはまるものはない

【すべての方に】

問9 あなたが、放射線について不安とを感じる事柄についてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- 1 自然の放射線や放射性物質
- 2 原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質
- 3 利用されている放射線や放射性物質
- 4 自然の放射線や放射性物質に起因する被ばく
- 5 原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質に起因する被ばく
- 6 利用されている放射線や放射性物質に起因する被ばく
- 7 自然の放射線や放射性物質に起因する被ばくによる人体影響
- 8 原発事故に由来する環境中の放射線や放射性物質に起因する被ばくによる人体影響
- 9 利用されている放射線や放射性物質に起因する被ばくによる人体影響
- 10 その他(具体的に:)
- 11 あてはまるものはない

【すべての方に】

問10 現在、高レベル放射性廃棄物の処分※2について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(〇は1つだけ)

- 1 安心
- 2 どちらかといえば安心
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば不安
- 5 不安

<※2 高レベル放射性廃棄物の処分> 原子力発電所で使い終わった使用済み核燃料から、リサイクルできるウランやプルトニウムを取り出すと、放射能レベルの高い廃液(高レベル放射性廃棄物)が残ります。
これまで発生した高レベル放射性廃棄物は、ガラス素材と混ぜてステンレス製の容器に密封し、30年～50年ほど冷やした後、私たちの生活環境に影響がないように、地下300mより深いところにある地層に埋設処分する計画が進行中です。現在、最終処分場の建設地を全国の市町村から公募しています。
なお、使用済み核燃料の処分方法については、現在、リサイクルせずに直接地層に埋設処分する計画も含めて再検討されています。

【すべての方に】

問11-1 原子力に関して、あなたは専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。

(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問11-2 あなたが、問11-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|------------------------|
| 1 専門的な知識を持っているから |
| 2 専門的な知識が不足しているから |
| 3 偏った見方をしているから |
| 4 公平な見方をしているから |
| 5 正直に話しているから |
| 6 正直には話していないから |
| 7 私たちのことを配慮しているから |
| 8 私たちのことには配慮していないから |
| 9 私たちと考え方が似ているから |
| 10 私たちとは考え方が違うから |
| 11 熱意をもって、原子力に携わっているから |
| 12 熱意が感じられないから |
| 13 管理体制や安全対策ができていないから |
| 14 管理体制や安全対策が不足しているから |
| 15 情報公開ができていないから |
| 16 情報公開が不足しているから |
| 17 信頼したいから |
| 18 信頼したくないから |
| 19 その他(具体的に: _____) |

【すべての方に】

問12-1 原子力に関して、あなたは国や自治体を信頼できると思いますか。

(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問12-2 あなたが、問12-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|------------------------|
| 1 専門的な知識を持っているから |
| 2 専門的な知識が不足しているから |
| 3 偏った見方をしているから |
| 4 公平な見方をしているから |
| 5 正直に話しているから |
| 6 正直には話していないから |
| 7 私たちのことを配慮しているから |
| 8 私たちのことには配慮していないから |
| 9 私たちと考え方が似ているから |
| 10 私たちとは考え方が違うから |
| 11 熱意をもって、原子力に携わっているから |
| 12 熱意が感じられないから |
| 13 管理体制や安全対策ができていないから |
| 14 管理体制や安全対策が不足しているから |
| 15 情報公開ができていないから |
| 16 情報公開が不足しているから |
| 17 信頼したいから |
| 18 信頼したくないから |
| 19 国や自治体は営利目的ではないから |
| 20 自分たちの利益優先に感じるから |
| 21 その他(具体的に: _____) |

【すべての方に】

問13 原子力に関して、あなたは国や自治体にどのような取り組みを望みますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 事故原因の徹底究明	8 説明会の開催
2 情報公開	9 展示館の設置
3 事故に対する未然防止策の策定	10 地域振興への協力
4 実務の公開	11 放射線管理の徹底
5 安全管理規制の強化	12 検査体制の強化
6 責任の所在の明確化	13 その他(具体的に:)
7 施設見学会の開催	14 特になし/わからない

【すべての方に】

問14 あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 新聞	6 本・パンフレット
2 テレビ	7 学校
3 インターネット	8 博物館・展示館・PR施設
4 ラジオ	9 その他(具体的に:)
5 雑誌	10 特になし/わからない

【すべての方に】

問15 あなたは、原子力やエネルギーに関する情報源(メディア)として、何を信頼しますか。次の中から当てはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも)

1 新聞	6 本・パンフレット
2 テレビ	7 学校
3 インターネット	8 博物館・展示館・PR施設
4 ラジオ	9 その他(具体的に:)
5 雑誌	10 特になし/わからない

【すべての方に】

問16 あなたは、原子力やエネルギーに関する情報について、どのような人や組織の発言を信頼しますか。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- 1 政府関係者
- 2 専門家(大学教員・研究者)
- 3 評論家(キャスターなども含む)
- 4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
- 5 自治体職員
- 6 財団法人、社団法人などの公益法人
- 7 国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関
- 8 小・中・高等学校の教員
- 9 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
- 10 新聞・雑誌などの記者
- 11 政治家
- 12 非営利組織(NPO)
- 13 オピニオンリーダー(身近な知識人)
- 14 知人や友人
- 15 家族や親戚
- 16 その他(具体的に:)
- 17 あてはまるものはない

【すべての方に】

問17 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設」の中で、参加してみたいものは
どれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- 1 施設見学会
- 2 勉強会(専門家が講師として解説を行う)
- 3 工作教室
- 4 実験教室(計測器など機器を用いて実験や測定を行う)
- 5 趣味講座
- 6 講演会(少人数、双方向型)
- 7 講演会(大規模、パネリストによる討論会)
- 8 コンクール(作文やポスターなどのコンテスト)
- 9 その他(具体的に:)
- 10 あてはまるものはない

【すべての方に】

問18 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- 1 直感的・感覚的に判断することが多い
- 2 論理的に判断することが多い
- 3 精神的な豊かさより物質的な豊かさが大切だ
- 4 物質的な豊かさより精神的な豊かさが大切だ
- 5 便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない
- 6 自然環境と調和するためには、社会生活の豊かさはある程度制限されなければならない
- 7 ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい
- 8 科学技術、環境に関する問題は、専門家による委員会等で決定されるべきだ
- 9 科学技術、環境に関する問題は、住民による話し合い等で決定されるべきだ
- 10 科学技術が発展することで、人は豊かになる
- 11 高度な技術も科学技術で完全に制御できる
- 12 どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない
- 13 社会の仕組みはますます複雑で分かりにくいものになっている
- 14 地域社会の豊かさは、ほかの社会との調和なしには実現しない
- 15 個人がそれぞれの幸福を追求すれば、経済は発展する
- 16 あてはまるものはない

【すべての方に】

問19 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書きください。(ご自由に)